

【平和都市宣言】世界の恒久平和は、人類共通の願いである。しかしながら、今日なお世界の動きは、核戦争の危機をはらみ、誠に憂慮にたえない。わが国は唯一の被爆国として、核兵器の恐ろしさと、被爆者の苦しみを全世界の人々に訴え、再び広島・長崎の惨禍を繰り返してはならない。我孫子市は市民の生命と安全を守るため、いかなる国のいかなる核兵器に対しても、その廃絶を求め、ここに平和都市を宣言する。(昭和60年12月3日)



平和の集い

～我孫子から平和を願う～

戦争の記憶を風化させることなく未来につなぐため、
広島派遣中学生や我孫子中学校演劇部の生徒が戦争や
原爆の恐ろしさ、平和の尊さを伝えます。

日時 12月4日(日)午後1時30分～3時45分(1時開場)
場所 けやきプラザホール

定員 先着500人 費用 無料
問 企画政策課・内線568



▲広島平和記念式典

広島派遣中学生による報告 (午後1時40分～)

8月5日～7日、市内中学校の代表12人が被爆地の広島を訪れ、戦争や原爆の恐ろしさと平和の尊さを学びました。現地での活動報告とその時感じた思い、平和への誓いを発表します。

令和4年度 広島派遣団

我孫子中…鈴木綾乃さん、長谷川千晃さん 湖北中…ジャシンリヤナゲ・あゆみさん、川坂晋矢さん 布佐中…野尻千結さん、菅光祐さん 湖北台中…佐野裕梨さん、榛葉央河さん 久寺家中…中濱陽香さん、松浦篤志さん 白山中…田中千尋さん、山口桜佑さん

「戦争は昔のこと」と思っていました。しかし、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻もあり「戦争のことをもっと知りたい」と思い、派遣に参加しました。

広島平和記念資料館で印象に残ったのは、「死体と間違われると思ひ、寝なかつたんだ」という言葉です。周りを見渡すと遺体ばかりで、生体と遺体の区別がつかないほどひどい状態だったことが伝わり、とても恐ろしいと感じました。

派遣を経験し、なぜ自分が戦争の恐ろしさや平和の尊さを次世代に伝えなければいけないのか、その理由がよく分かりました。「平和」についてしっかりと考え、平和の集いやリレー講座を通して戦争の恐ろしさや平和の尊さを未来に語り継ぎます。

広島派遣団長 田中 千尋(白山中学校二年)



我孫子中学校演劇部「輝けいのちーヒロシマの地下室からー」(午後2時55分～)

原爆詩人・栗原貞子さんの代表作「生ましめんかな」のモデルとなった実話を基に、原爆投下後の暗闇の中から、一筋の光が放たれた瞬間を描いた物語です。

◀演劇の様子(令和3年)

「平和の集い～我孫子から平和を願う～」展

期間 12月4日(日)まで

場所 ①アビシルベ(午前9時～午後6時※最終日4時まで)
②けやきプラザギャラリー(午前9時～午後7時※最終日4時まで)

内容 ①サダコと折り鶴ポスターの展示(広島平和記念資料館所蔵) ②広島市立基町高校の生徒と被爆者の共同制作「原爆の絵」(広島平和記念資料館所蔵)および市の平和事業の展示

新型コロナウイルス感染症の影響で縮小開催が続いていた広島平和記念式典に派遣中学生が参列し、原爆犠牲者に哀悼の誠を捧げ、恒久平和を祈念しました。

2月から続くロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、戦争や核兵器を身近な危機として感じるが多くなりました。広島を訪れた中学生は、原爆の悲惨さ、平和の尊さを一層強く感じたことでしょう。

「平和の集い」は感染対策を徹底して開催します。未来を生きる若者による平和へのメッセージを多くの方に聴いていただけますと幸いです。

市長 星野 順一郎